

7月24日は土用の丑の日。うなぎやスタミナ食で、猛暑の夏を元気に乗り切りたいものです。現在会員登録数1,722人さま。ご愛読ありがとうございます。次号は8月20日発行の予定です。

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》 YO!この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 59

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

《4》 行って来ました!

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● 当財団の新理事長に 宮川健郎教授が就任

7月1日に開催した理事会において、当財団第7代理事長に 宮川健郎 武蔵野大学教授が選定され、就任しました。

● 子どもの本の展示とイベント

「世界の国からこんにちは：70年万博と世界の絵本展」

1970年の大阪万博から45年。世界各国の絵本 約100冊と当時のパンフレットなどの万博グッズを展示します。

期 間：開催中～7月26日（日）午前10時～午後5時 水曜休館

会 場：EXPO'70パビリオン1階ホワイエ（吹田市万博記念公園内）

入場料：無料 ただし、万博記念公園自然文化園の入園料が必要

主 催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

一般社団法人 関西環境開発センター

後 援：大阪府立中央図書館

助 成：日本万国博覧会記念基金事業助成金

詳細は → http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html

● 「おはなしモノレール」参加者募集

大阪高速鉄道「万博記念公園駅」から「彩都西駅」まで、貸切モノレールに乗って、車内で絵本や「おはなし」を楽しみ、彩都の会場では「人形劇」を観ていただくお子様向けのイベントです。

5歳から小学校3年生までのお子様と保護者の方、あわせて240人を募集します。

9月13日（日）の午後で、参加費は、お一人500円（大人・子ども同額）です。申込締切は8月31日（月）必着。詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/01_kids/index.html

● 「第32回 日産 童話と絵本のグランプリ」作品募集

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは10月31日（土）です。詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html

● 第15回国際グリム賞（国際児童文学研究賞）の受賞者が決定

世界において、児童文学研究にすぐれた業績をあげた方、または児童文学の研究・紹介等の振興に顕著な功績のあった方を顕彰する「国際グリム賞」の受賞者が決定しました。

受賞者：ペリー・ノーデルマン博士（カナダ・ウィニペグ大学名誉教授）

贈呈式および記念講演会：平成27年11月21日（土）

大阪国際交流センター（大阪市天王寺区） *詳細は後日発表

主催：大阪国際児童文学振興財団／一般財団法人 金蘭会／

大阪府立大手前高等学校同窓会 金蘭会 詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/01_grimm/index.html

● 研究紀要の原稿募集

当財団では「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第29号の原稿を募集しています。お申し込み、詳細は ↓↓

http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/boshu.html

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》 Y O ! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

『エドワード・アーディゾーニ 若き日の自伝』エドワード・アーディゾーニ / 著 阿部公子 / 訳 こぐま社 2015年5月 対象年齢：大人

概要：『チムとゆうかなせんちょうさん』をはじめとする絵本作家、エリナー・ファージョン作『ムギと王さま』などの挿絵画家として1930年代から活躍したアーディゾーニ（1900～1979）の自伝。6歳までの早い記憶から、母が父のいる極東へ行き、祖母と暮らした日々のこと、いじめを受けた学校生活、速記者や事務員として働きながら美術学校の夜クラスに出席したことなどがスケッチとともに綴られている。

O：20世紀初頭のアーディゾーニの子ども時代って、大英帝国時代の名残りがあちこちあって、ドラマよりもおもしろいですね。

Y：本当に。まず、アーディゾーニはベトナム生まれです。お父さんは極東

の電報会社で働くイタリア系フランス人で、お母さんは、兄弟がオックスフォード大学へ行くような、少し没落したイギリスの中流階級の出身。

○：ベトナムで生まれても、子どもの教育はイギリスで行う。お母さんは何度もお父さんに会いに行ってそのたびに子どもができて、赤ちゃんを連れて帰ってくる。

Y：子どもたちは個性的なおばあさんの元で育てられる。そして両親は仲が悪かったと書いている。それに加えて学校ではいじめられています。

○：急速なグローバル化がなされるイギリス社会の中で、異文化の衝突の渦中で育っていったので強い個性を磨かざるを得なかったような。

Y：お母さんの描き方など、距離の取り方が絶妙です。

○：いじめをはじめ、自分のことに関しても客観的に、時に、誇張して語っていますね。それがユーモア、苦味を効かすこともある独自の世界に繋がっていくのがわかりました。

Y：軍隊でも不合格になり、ある意味、アウトサイダーとして生きてきたことで、孤独と強さが感じられ、それらがすべて絵にも表れているように思います。

○：絵本が出版されるまでの下積み時代が長かったのですが、あの独自の挿絵の世界がどうやってできていったのかは、この自伝ではあまり語っていません。イギリスの紳士は、晩年、自伝を書くといわれていますが、自分の仕事は、残した作品で味わってくればよいと考えていたのでしょうか…。

Y：アーディゾーニの絵は人物がどんなに小さく描かれていても、後ろ姿でも、どんな人かというのがイメージできるところが魅力です。

○：自然描写も空気感が伝わり、暗闇の暗さが伝わる。全体をぱっととらえて本質を描くという才能は誰にも真似ができないものがあります。その地味だけれど、深く共感できる作品を長年収集されてきたのが、こぐま社相談役の佐藤英和さんです。『チムとゆうかなせんちょうさん』のオリジナル作品の復刻、コレクションの展覧会、詩集の出版などを通じて、アーディゾーニ作品の真価を伝える活動をされています。

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 59

その9 おはなしを語る（3）おはなしを選ぶ 9

前回、「鳥のみじい」の3つのおはなしを聞き比べした研修会で、どの語りもおもしろかったと書きましたが、今回は、その中で最も短い「鳥のみじい」（『子どもに語る日本の昔話2』 稲田和子・筒井悦子/再話 こぐま社 1995年12月）のおもしろさについて考えたいと思います。

まずは、簡潔な語りははじめです。「昔むかし、あったとさ」から始まり、「昔あるところに、おじいさんとおばあさんが住んでいた」と昔話の定番の語り口で時間、空間、登場人物が設定されています。そして、この話の中心的存在である鳥が出てくるまで、無駄な文は一切なく、畑でお弁当を食べるまでが語られます。

小鳥は最初、木の上で鳴いていますが、おじいさんに誘われるまま、鍬の柄、飯粒のついた手の上、舌の上と移動し、ついにおじいさんは小鳥を飲み込ん

でしまいます。ここは、冒頭部分のドラマが盛り上がるところです。

それから、おじいさんは小鳥の尻尾がへそから出て、それを引っ張ったら小鳥が鳴くことに気づきます。それをおばあさんに見せ、おばあさんは、お殿様に見せることを提案する。話がとんとん拍子に進みます。

あくる日、おじいさんは、殿様に「日本一の歌うたいじい」と名乗り、小鳥の声を鳴かせて、ほうびをもらいます。そして、「そればかり」という昔話定番の結語で簡潔に終わります。

このように、

起：おじいさんが畑を掘り起しに行って鳥の声を聞く

承：鳥を飲み込んでしまい、おへその鳥の尾を引っ張ったら鳴くことを知る

転：おばあさんに聞かせる

結：殿様に聞かせ、ほうびをもらう

という、はっきりしたわかりやすい構成になっています。

このお話の耳で楽しむ要素は、鳥の鳴き声です。「アヤチュウチュウ コヤチュウチュウ ニシキサラサラ ゴヨノサカズキ モッテマイロウカ ビビラビーン」。意味としては、「綾（絹織物）。錦（絹織物）。五葉（御代）の盃など、めでたいもの、豪華なものを持ってまいろうか」と歌っていますが、「チュウ」「サラサラ」「ビビラビーン」などの音が多用されていて耳に心地よく聞こえます。これだけ短いお話で、全部で6回も出てきて、お話全体が豪華で音を楽しむ内容となっています。

そして、小鳥の声を愛でたおじいさんが、小鳥を体内に入れ、おばあさんの助言を聞いて殿様から宝を得るというストーリーからは、虚心に芸術を愛する心が富を得るというメッセージを読み取ることができます。

* 次号は「その9 おはなしを語る（3）おはなしを選ぶ 10」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思えます。（Y）

《3》 サイト紹介 一子どもの本をリサーチする一

資料所在情報データベース補遺篇〈その9〉

今回ご紹介するのは以下のサイトです。

● テレビドラマデータベース

<http://www.tvdrama-db.com/>

古崎康成さんという方が「世間に影響を与えている存在なのに、映画と比べて消耗品のように扱われているのがひどくはかなく思えて」テレビドラマ作品の記録を蒐集し、個人でデータベースとしてWEB上に公表されているものです。

ご承知のとおり、児童文学とテレビ・アニメーションは切っても切れない関係です。かつて見たあのアニメをもう一度みたい！あの番組の制作・放映年代やスタッフについて知りたい！など、テレビ・アニメに関する情報を得た

い方は多いのではないのでしょうか。

このサイトは、書籍『テレビドラマ全史』（東京ニュース通信社、1994年）などを参考に、アニメーションを含むさまざまなドラマが検索できます。

データベースは大きく分けて、「ドラマデータベース」と「人名データベース」の二つ。ドラマデータベースでは、実写かアニメかを選択でき、かつタイトル（番組名）、原作名、解説、主題歌、放送期間などで詳細検索できます。人名データベースでは、制作にかかる出演、原作者、脚本、演出、プロデューサー、制作、企画などで探索できます。すべての項目を対象に一括検索することも可能で、この場合は「テレビドラマ全文検索」を活用。約3万9千件以上のデータベースから情報検索を行います。

単に番組名だけでなく、原作や主題歌、あらゆるスタッフで検索できるのがユニークなところ。スタッフでは、意外な発見をすることも。例えば、手塚治虫のデビュー作『新宝島』の共作者として知られ、関西のアニメ・マンガ・紙芝居の歴史に名を残す酒井七馬で検索すると、1965年から67年にかけて放映された「オバケのQ太郎」の〈主な演出〉者として（この場合は作画演出と思われる）ヒットします。七馬の仕事の間口の広さを示しています。

あの名作はドラマやアニメになっていたかな？という使い方や、あのアニメの主題歌は何という曲名だったっけ？というようなケースにも役立ちそうです。（J）

※次号は、資料所在情報データベース補遺篇〈その10〉の予定です。

《4》 行って来ました！

阪急うめだギャラリーで7月27日まで開催されている「わたしのマーガレット展」に行ってきました。

1963年に創刊された少女まんが誌「週刊マーガレット」「別冊マーガレット」の半世紀にわたる足跡をたどる展覧会で、原画約400点が展示されています。

入ってすぐは、万華鏡のようなスクリーンで観る『100のキス…Love&Kiss Forever』という映像です。いろんな年代の恋愛ものの名場面が、感動的なピアノの音楽にのせて次々と映し出されます。少し気恥ずかしい気もしながら、少女まんがの世界に引き込まれていきました。

最初のコーナーで「マーガレット」の誕生について説明があり、そのあとは主に「スポ根もの」「怪奇」「ギャグ・コメディ」「恋愛もの」「学園もの」などのジャンルに分けて、初期に掲載された作品から最近の作品までが展示されています。

コーナーごとに、描かれた背景やその時代の傾向などが解説されていて、原画にそえられたあらすじと作家についての解説を読んで、ストーリーを想像しながら見ていくことができます。原画にはホワイトで消した跡が見えたり、

セリフの文字が貼り付けられていたり、とても色鮮やかなカラーだったり、肉筆の迫力を感じることができます。

「アタック No.1」や「エースをねらえ！」などテレビアニメでよくみた作品や、掲載当時に読んでいた懐かしい作品もあり、その頃の自分に戻ったように楽しめました。また、アニメ化や実写のドラマや映画化がされた作品もたくさんあり、それぞれの時代の読者に受け入れられていたのだなと思いました。

「ベルサイユのばら」のコーナーでは、オスカルとアンドレの等身大立像は撮影可能で、人だかりができていました。また、会場外の壁面には、縮小された表紙の画像が一面に並べられていて、見覚えのある号を探したり、オリジナルグッズを売り場で物色したりして、最後まで楽しめました。(K)

【3】全国のイベント紹介

● 資料展示「国際アンデルセン賞受賞者作品展」

2014年、上橋菜穂子さんが国際アンデルセン賞（作家賞）を受賞されたことを記念し、これまでの受賞者の作品を展示します。また、画家賞を受賞されたブラジルのホジェル・メロさんの作品とブラジルの絵本も紹介します。

会 場：大阪府立中央図書館 国際児童文学館（東大阪市荒本）

期 間：開催中～9月27日（日） 休館日あり

料 金：無料

主 催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館

共 催：一般社団法人 日本国際児童図書評議会

◇「アンデルセンをさがせ！！」

展示資料の近くにある文字を全部集めると「絵本でパズル」がもらえます。

（先着300名）

◇子ども向けイベント「おはなし会：絵本で世界をめぐる」

日 時：8月1日（土）午後2時～、3時～（各30分間）

場 所：同館こども資料室

● 第16回 絵本ギャラリー in 奈良

子どもから大人まで楽しめる絵本の世界を、多彩な内容で紹介します。

「つくってあそぼ、みてあそぼ」「おはなしの部屋」「おもちゃ作りと絵本の部屋」など、いろいろなイベントを開催

テーマ：「みんなおいでよ！ 夢がふくらむ絵本の世界」

日 時：8月1日（土）、2日（日） 午前10時～午後4時30分

場 所：奈良市ならまちセンター（奈良市）

入場料：無料

主 催：絵本ギャラリーin奈良実行委員会

共 催：奈良新聞社ほか

後 援：大阪国際児童文学振興財団ほか

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「YO!この本読んだ?」で紹介しましたアーディゾーニ/絵でエリナー・ファージョン/著の『マローンおばさん』(こぐま社)を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガNO.59プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ(5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は8月10日(月)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

先月から続いて歯科医に通っている。今は歯石の除去で、歯科衛生士さんの出番だ。問診票の「習慣的飲料」に「ビール」と書いた。(休肝日もなくウン十年…) で、私が口を開けると、開口一番「最近ワインも飲まれていませんか?」「あっ、時々。」「赤ですよ。綺麗にしておきます。」う～ん、しのぶれど色に出にけりわが酒は…。(A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
- 配信の登録・解除・変更は、
http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ
- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
